

なるほど！うみはく

アマモ場で海の環境を学ぶ！

市立海の博物館

☎ ③2 6006



アマモという海草をご存じですか。鳥羽水族館のジューゴンの餌になる海草と言ったらお分かりでしょうか。アマモは陸上の植物と同じ仲間で、海水のきれいな水深数メートルの砂泥地に生える海の草です。

アマモは、地下茎（根の部分）を延ばしたり、花を咲かせて種を作り、その種が海底に落ちて芽を出したりして、増えていきます。アマモがたくさん生えている（繁殖する）場所をアマモ場と呼びますが、伊勢湾に限って言え

ば、この60年ほどでその面積は100分の1まで減少したとの報告があります。アマモ場がなくなつたのは、海水の汚れ（透明度の低下）、底質の変化（泥やヘドロ化）、潮流の変化、除草剤などの農薬の影響、埋め立てなどが原因ではないかといわれています。

アマモ場は「海のゆりかご」とも呼ばれ、多くの海の生き物が生まれ、育つ場所

で、海の環境にとってはとても大切な場所です。平成23年、海の博物館は浦村地区の漁業関係者と「浦村地区藻場保全活動組織」を結成し、浦村地区の生浦湾のアマモ場についての調査を始めました。そして、毎年アマモ場の分布地図を作ったり、アマモ場のことを知ってもらうために「生きもの観察会」を開催したりしています。また、かつてアマモ場が広がっていた麻生の浦大橋から奥の板敷浦や

大瀨浦にアマモ場を再生しようと、毎年6月中旬にアマモの種を採集し（今年は6月16日を予定）、12月まで冷蔵保存して、海にまく活動も続けています。

さらに海の博物館に来館する市内の小学校5年生とアマモ場に入って、生き物を捕獲・観察する体験を行っています。子どもたちからは「こんな浅いところに生き物がいっぱいいる」「イカの卵を始めてさわった」「メバルなどの魚の赤ちゃんがたくさんとれてびっくりした」など驚きの感想が聞かれます。

今年も5月から、海の博物館で市内の小学校5年生に鳥羽の海の環境について学んでもらう活動が始まります。



保全活動



鏡浦小学校の児童らとのアマモ学習

三重県内 男女共同参画 連携映画祭 2018



鳥羽市
TOBA

カタチなんて、あとから合わせればいい
彼らが本気で編むときは、

2017年 / 127分 / 脚本・監督：荻上直子 / 出演：生田斗真、桐谷健太ほか



©2017「彼らが本気で編むときは、」製作委員会

とき 7月7日(土)
開場 午後1時
開演 午後1時30分～
上映 午後1時50分～4時
※上映後、アフタートーク開催

ところ 鳥羽市民文化会館大ホール
※駐車場に限りがあります。できる限り公共交通機関でお越しください。

定員 700人
整理券 無料（5月7日（月）より市民課、各連絡所で配布開始。なくなり次第終了。）
託児 先着5人（満1歳～未就学児）
※6月22日（金）までに申し込んでください。
問合せ先 市民課人権・生活係 ☎ ②5 1126